



「対話型人工知能の登場に思うこと」

島根県教育センター 所長 大場 尚樹
島根県教育センター浜田教育センター長



日頃より、島根県教育センター及び島根県教育センター浜田教育センターの事業につきましてご理解・ご支援いただきありがとうございます。

島根県教育委員会では、「ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり」を基本理念に施策の方向性を示し、学校・家庭・地域・行政が連携・協働し、一体となって本県教育を進めるため、令和2年3月「しまね教育魅力化ビジョン」を策定しました。教職員の研修については、「人材育成基本方針」を基盤とし、令和5年3月に改訂したキャリアステージごとに育成すべき姿を示した「教諭等の育成指標」をもとに、本県の教職員として求められる資質能力を高めるため、今日的な課題や社会のニーズを踏まえながら、研修内容や方法の不断の工夫・改善を行います。

さて、2013年頃、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授をはじめ、多くの研究者が予測した、人工知能（AI）によって今後なくなるであろうと思われる職業には、「小学校の教員」と「中学校の教員」が入っていませんでした。「学ぶことの喜びを教える」ことは、人間の先生にしかできないからだといいます。この予測を知ったとき、私は、「教員は、『ふれあい』、『見守り』、『気配り』、『思いやり』といった、人間的で曖昧な要素が重要な職業だからかもしれない。」と思いました。そして、便利な道具としてのICT活用は大賛成だが、子どもたちの心の声をきき、愛情あふれる笑顔で声をかけ、学ぶことの楽しさを教えるのは人間の先生であってほしいと感じたものです。

予測から約10年たちますが、最近では、米マイクロソフト系企業が開発した対話型人工知能（AI）「チャットGPT」が話題となり、教育の世界でも、どのように取り扱うのか議論となっています。タブレット端末等の情報ツールを教育現場でどう取り扱うか。児童生徒の使い方に対する議論もありますが、教員が担うべき事柄にもある程度の整理が必要ではないかと感じています。対話型人工知能（AI）「チャットGPT」について言うなら、教員の働き方改革、負担軽減に資するという点では、その利用は望ましいように思われます。しかし、教員が人として向き合うべき仕事までAIに任せるわけにはいかないと考えます。中学生の頃、生活ノートに1行でも担任の先生のコメントがあると、とても嬉しかった記憶があります。通知票の担任所見のように、児童生徒に個別に読ませるものは、教員に成り済ましたAIに書かせてはならないのではないのでしょうか。朝の健康観察において、児童生徒にタブレット端末にその日の気分を入力させて、心の健康をつかむ取組があるそうです。アンケートフォーム等を活用して子どもの異変をつかむことは、教員の助けになると思います。一方で、子どもの言葉、表情などから心身の健康状態を把握することも、とても大切なことだと感じます。

本教育センターの使命は、「島根の教育」を担う教職員や学校・家庭・地域に伴走し、支援することです。ICTを積極的に活用しながらも、皆様との対話を通して、心の通い合う研修や事業となるように努めて参ります。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。